



# 埋文だより

第49号

平成21年2月18日発行

## 壺棺など700点を復元 南摺ヶ浜遺跡



みなみすり がはま いせき  
南摺ヶ浜遺跡  
いぶすき しや  
(指宿市)は、弥  
よい こふん  
生時代から古墳時  
代にかけての集団  
ぼち つぼかん  
墓地で、壺棺墓を  
はじめ多様な墓が  
発見されました。

整理作業では、南  
九州特有の成川式土器  
を はじめ墓に供献され  
た土器など約700点が  
復元できました。また、  
やじり  
剣や鏃などの鉄製品も  
80点ほど見つかっています。

これらの出土品は、当時の葬送儀礼を  
知る上で貴重な資料となりました。

なお、本遺跡の重要性が認められ、24  
点の遺物が文化庁主催の「発掘された日  
本列島2009」展へ出展され、日本各地を  
巡回することになっています。

### 目次

- ・ 壺棺など700点を復元 南摺ヶ浜遺跡 ..... 1
- ・ 新発見続出！平成20年度センター業務報告 ..... 2・3
- ・ のぞいてみよう「南の縄文調査室」 ..... 4
- ・ シリーズ埋文豆知識⑨動かぬ証拠！「圧痕」 ..... 5
- ・ 3遺跡で現地説明会を開催！ ..... 6



# 新発見続出！平成20年度 センター業務報告

当センターでは、本年度、22遺跡の発掘調査と29遺跡の整理作業・報告書作成を行いました。発見した遺構や多彩な出土品は、県内はもちろん全国的にも注目を集めました。

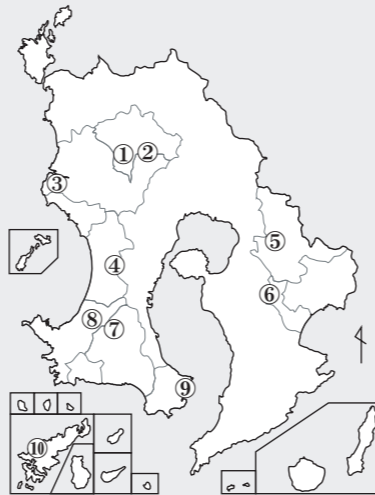
これらの中から10遺跡について、その成果を紹介します。



## ① 解明進む戦国時代の城郭 ～虎居城跡（さつま町）～

虎居城は、戦国時代に<sup>けどういん</sup> 祁答院氏や<sup>しまづ</sup> 島津氏が居城したとされる南九州の代表的な城郭です。4か所の台地（曲輪）と、その間の谷を調査しています。

谷部では、曲輪を廻る堀（幅・深さ共に2m）が見つかり、さらに県内では珍しい柱や漆器椀ほかの木製品も発見されました。付近には湧水があり、保存環境が良好だったことが幸いでした。これらの発見で、城郭の構造を確認することができました。



遺跡位置図

## ② 北薩に花卉形住居 ～向井原遺跡（さつま町）～

今年度新たに、8軒の竪穴住居跡を発見し、総数は12軒となりました。このうち、花卉形住居跡の発見はこの地域で初めてであり、その広がり注目されます。



## ③ 自然堤防上に残された弥生人の痕跡 ～川骨遺跡（薩摩川内市）～



川内川の自然堤防上の14か所で、土器が廃棄されたように集中して出土しました。

その中の1か所では大甕や、南九州では類例の少ない特殊な壺、器台などが大量に発見されました。

## ④ 縄文時代早期の遺跡間交流 ～市ノ原遺跡第3地点（日置市）～

縄文時代早期の層から出土した石器が、国の重要文化財に指定されている上野原遺跡の石器にそっくりであることがわかりました。

写真上段が本遺跡、下段が上野原遺跡の石器で、左から順に小型石斧、石匙、異形石器と呼んでいます。それぞれ、石器の大きさや石材、作り方がそっくりです。

両遺跡は、直線距離で45km離れています。この時代に、深い交流があったのかもしれませんが。

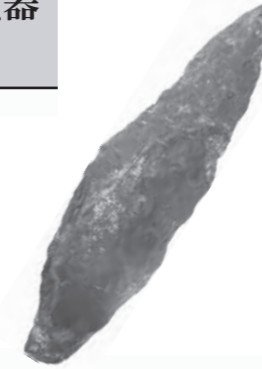


上段：市ノ原遺跡出土  
下段：上野原遺跡出土

## ⑤ 旧石器時代の大型の尖頭器 ～建山遺跡（曾於市）～

約23,000年前の地層から出土した大型の「槍先形尖頭器」です。長さ15.5cm、幅4cmあります。

南九州ではこの時期にこのような大型の尖頭器が出土する例は少なく、注目されています。



## ⑥ 本土初出土！孔のあいた磨製石鏃 ～天神段遺跡（大崎町・志布志市）～

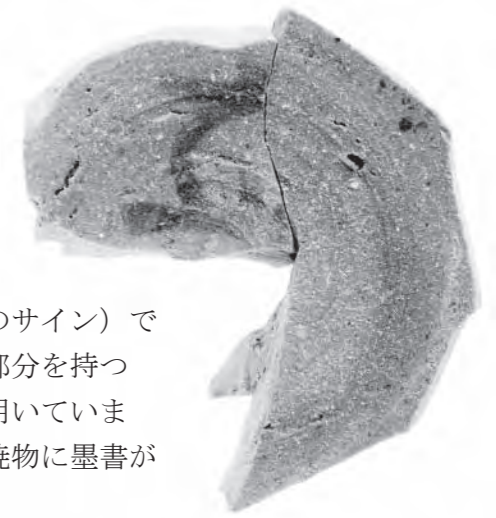
縄文時代早期の地層から、全面を磨いて作った鏃に孔があけられたものが出土しました。同様なものは種子島の三角山遺跡などで発見されていましたが、県本土では初めてとなります。



## ⑧ 花押か？-青磁の内側に墨書発見- ～上水流遺跡（南さつま市）～

青磁の底の内側に墨書がありました。

「丘」か「立」の一部にも見えますが、この墨書は花押（有力者のサイン）ではないかと考えられています。「丘」か「立」のように、「\_」の部分を持つ花押は、「足利様式」のものとされ、室町幕府と関係のある人物が用いていました。焼物は、14～15世紀に中国で作られたものです。このころの焼物に墨書があることも、花押があることも県内ではとても珍しい例です。



## ⑨ 「二股」の器台が出土 ～南摺ヶ浜遺跡（指宿市）～

これは器台と呼ばれる特殊な土器で、小型の壺が乗っていたものと思われます。鮮やかに丹を塗り、丁寧に仕上げられています。特に、写真右側のものは2つの器台を備えており、全国的にみても非常に珍しいものです。



## ⑩ 貝符の製作跡か ～屋鈍遺跡（宇検村）～

古墳時代の貝符とその未製品が発見されました。

写真上が製品で、貝札ともいいます。写真下はその製作過程のもので、イモガイを縦に割って四角にし、形を整えるための切り口が入っています。



上段：貝符  
下段：貝符未製品

# ぞいにてみよう「南の縄文調査室」

当センターには、発掘調査や報告書作成だけではなく、県内の埋蔵文化財に関する調査・研究や情報発信、遺物の保存処理などを担当する南の縄文調査室があり、主に次のような業務を行っています。

【（ ）内は今年度の実績】

- 1 調査研究：資料収集等(月約200件)、データベース作成(月約5,000件)、遺物の分析(月約40点)
- 2 情報発信：埋文だより発行(年3回)、ホームページ公開、資料貸出・閲覧対応(月約30件)
- 3 保存処理：木器・鉄器等の保存処理(年約1,000点)
- 4 上野原縄文の森展示館との連携：企画展等への協力(年3回)  
遺跡保存館など公開施設の環境調査(月1回)

資料・文献を整理・収集・分析しながら、上野原遺跡だけでなく、南の縄文文化を解明すべく研究を進めています。



資料分析の様子

## 全国へ向けて情報発信

情報提供サービスの一つである「鹿児島県上野原縄文の森」のホームページでは、上野原遺跡の紹介や当センター及び展示館情報、各地で行われる考古学に関するイベント情報などを発信しています。また、県で発掘調査を行い、報告書として刊行した遺跡の情報をデジタルデータ化し、誰でも利用できるよう広く外部へ向けて公開しています。

### かごしま考古ガイダンス

鹿児島で発見された遺跡や遺構、遺物を、テーマごとにわかりやすくまとめてみました。

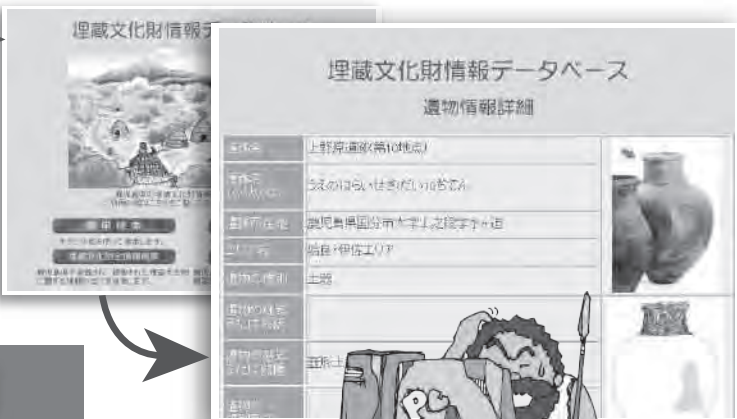


上野原縄文の森ホームページ トップ画面

この他、当センター及び上野原縄文の森内の各施設の紹介、特別企画展の情報提供や「埋文だより」等刊行物の電子版のダウンロード配信なども行っています。

### 埋蔵文化財情報データベース

報告書を基に、遺跡情報のデジタル化を行い、埋蔵文化財情報データベースとして、公開しています。



検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



# 埋文豆知識⑨

# 動かぬ証拠！「圧痕」



写真1 網代底（上水流遺跡出土・平編み+綾編み）



写真2 網代底（上水流遺跡出土・もじり編み）

おや？土器の表面に何か模様があるぞ。  
出土した土器を調べていると、時々網目の圧痕（土器表面に見られる何らかの痕跡）が見つかることがあります。写真1，2は土器の底に残された網目の圧痕を粘土で型取りしたものです。このような圧痕のついた底を「網代底」と

呼んでいます。土器は粘土を焼いて作りますから、圧痕を焼き上がったあとにつけることは不可能です。土器製作の過程で敷物の上に置いた際、土器の重みで敷物の網目が写しとられたのです。

## 布目・糲…虫も発見！！

写真3は南摺ヶ浜遺跡で出土した甕の表面に点々と残っていたもので、当時の布目がはっきりと見えます。また、圧痕には布の模様だけでなく、食べ物や虫などの形がそのまま残される場合もあります。

写真4～6は、土器表面に見られるくぼみの拡大写真です。それぞれの右下にある小さな写真はくぼみをシリコンで型取りし、電子顕微鏡で観察したものです。糲（イネ，写真4，5），昆虫類の幼虫らしいもの（写真6）などの形が、そのままの姿で残っています。これらを丹念に調べていくことで、当時の生活の様子や環境など、様々な情報を知ることができます。

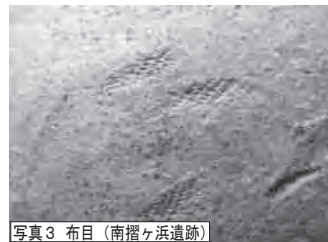


写真3 布目（南摺ヶ浜遺跡）

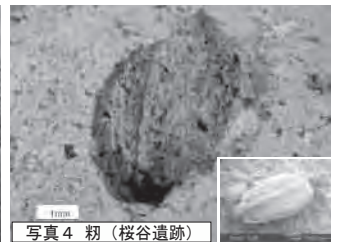


写真4 糲（桜谷遺跡）

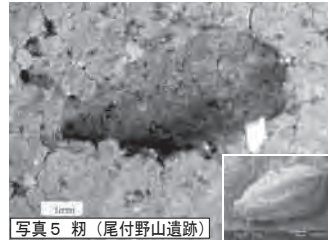


写真5 糲（尾付野山遺跡）

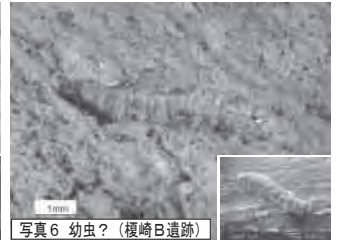


写真6 幼虫？（榎崎B遺跡）

## 考古学の世界で活躍する分析機器③



写真9 赤外線写真（狩俣遺跡出土墨書土器）

### 赤外線カメラ

最近では携帯電話の赤外線通信や防犯カメラなど、幅広い分野で利用されている赤外線ですが、考古学の世界でも大活躍しています。

土器や木製品などに書かれた墨書は、数百年、あるいはそれ以上の時を経て劣化したり、表面に泥などの汚れがこびりついて読み取りにくくなっていたりします。赤外線はこれらの影響をあまり受けないことや、画像処理技術の進歩により、肉眼で読めない文字も解読することが可能になってきています。



写真7 赤外線カメラ



写真8 X線透過撮影装置

### X線透過撮影装置

この装置は、病院のレントゲンと全く同じしくみですが、考古学の世界では主にさびついた金属製品を撮影しています。

鉄製の鎌や剣のほかに、銅銭・銅鏡など、発掘調査ではいろいろな金属製品が出土します。それらはほとんどの場合、数百年の間地中に埋もれていたためにさびで覆われ、本来の姿が分かりません。そこでこの装置で撮影すると、地金の部分とさびでふくらんだ部分を見分けることができます。また、象嵌の発見やガラス玉の作り方の解明など、いろいろな情報を得ることができます。



写真10 X線写真（天神段遺跡出土鉄鎌）

# 3 遺跡で現地説明会を開催！

当センターでは、発掘調査中の遺跡の中から代表的なものを選び、現地説明会を実施しています。今年度も、秋空のもと天神段遺跡、虎居城跡、石縊・十三塚遺跡で現地説明会を実施し、1200人を超える参加がありました。



天神段遺跡



石縊・十三塚遺跡



虎居城跡

## 天神段遺跡 (曾於郡大崎町野方 志布志市有明町野神)

9月27日開催 300人

天神段遺跡は、曾於郡大崎町野方と志布志市有明町野神の飛び地にまたがる遺跡です。当日は、鎌倉時代初め頃（約800年前）の墓5基を中心に、隣接する野方前段遺跡の、縄文時代の石蒸し料理場跡や落とし穴なども公開しました。

墓の中には青磁の碗や皿がきれいに並べられ、さらに、2羽の鶴が描かれた和鏡、和鋏、鉄製紡錘車、滑石製の石鍋などが納められていました。これらの遺物も、出土状況の写真とともに展示しました。訪れた方々は副葬品の多さに驚きの声をあげていました。

## 虎居城跡 (薩摩郡さつま町宮之城屋地)

11月8日開催 440人

虎居城跡では、7月に開催したさつま町教育委員会の現地説明会に続き、2回目の説明会を当センターで開催しました。

虎居城は、全国各地に数多く所在する中世の山城のひとつです。川内川の改修に伴い、城の広い部分を発掘調査しており、蛇行した川内川や急峻な地形

## 石縊・十三塚遺跡 (鹿屋市串良町細山田)

11月22日開催 500人

石縊・十三塚遺跡は、東九州自動車道鹿屋串良ICの予定地にあります。

ここでは、弥生時代中期の竪穴住居跡4軒や、王子遺跡（鹿屋市）に次ぐ県内2例目となる樹皮布叩具などの石製品等を紹介しました。また、これまでの東九州自動車道関連の遺跡ではあまり見られなかった池田降下軽石層（約5,500年前）がはっきりと残っており、ほかの各時代の火山灰層と合わせて説明しました。

遺跡見学のほか、発掘体験・土器の文様作りなど多くの体験コーナーも設け、参加者の方々に「昔の人たちの暮らしぶりが目に浮かびました」、「実物を見ながら説明が聞けてすごく分かりやすかった」など、たくさんの感想をいただきました。

を巧みに利用してつくられた曲輪や土塁、堀など当時の城のつくりや、礎石建物跡、掘立柱建物跡、かまど跡などの遺構を紹介しました。また、今回の調査で発見された木器を含む大量の遺物なども展示し、参加者は興味深そうに見入っていました。

## アンケートのお願い

「埋文だより」のよりよい紙面作りのため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

上野原縄文の森ホームページからアンケート用紙をダウンロードし、メールまたはFAX等（下記参照）で返信してください。

皆様の声をお待ちしております。



## 埋文だより 第49号

発行日 平成21年2月18日  
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-4318 鹿児島県霧島市

国分上野原縄文の森 2番1号  
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>  
E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。